

# Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO. 193 2025. 6. 1

日本教育情報学会 運営本部事務局  
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4 丁目 698-1  
大阪教育大学 理数情報教育系 次世代教育部門 若杉研究室  
E-mail: jsei@jsei.jp https://www.jsei.jp/

## 日本教育情報学会 第 41 回年会の開催に向けて

2025 年 8 月 30 日（土）・31 日（日）の 2 日間にわたり、日本教育情報学会第 41 回年会を大阪教育大学柏原キャンパスにて開催いたします。今回の年会では、「Next GIGA と教育現場の変革」を統一テーマとして掲げ、急速に進展する教育のデジタル環境と、その先にある教育の構造的転換について議論を深める場といたします。

GIGA スクール構想により、1 人 1 台端末の配備と校内ネットワークの整備が進み、教育における ICT 基盤はかつてない水準に到達しました。しかしながら、情報環境の整備そのものが教育の質的変容を保証するわけではありません。むしろ今問われているのは、こうした環境をいかに「価値ある学び」へと結びつけていくか、という教育の本質に関わる課題です。

生成 AI や教育ビッグデータ、ラーニング・アナリティクス、遠隔・ハイブリッド授業など、多様な技術革新は教育の方法・手段に変化をもたらしていますが、その変化が学習の深まりや人間形成といかに関係づけられるのか。単なるテクノロジー導入に留まらず、カリキュラム、評価、教師の力量形成、教育制度全体の見直しまでを含めた「教育 DX」の再定義が求められているともいえるでしょう。

本年会は、そうした時代的要請に応答する形で、「Next GIGA」すなわちポスト GIGA 時代の教育環境・教育実践をめぐる論点を総合的に取り上げ、学術的・実践的に問い直す機会といたします。実証的研究、理論的検討、制度論的考察、実践報告等、多様な研究スタイルが交差する中で、教育情報学という学際領域の広がりや深まりを共有したいと考えております。

基調講演やシンポジウムに加え、各研究会による課題研究発表、一般研究発表、協賛企業による展示企画なども予定しております。情報科学、教育学、心理学、工学、社会学といった複数の分野が交わる本学会ならではの視点から、教育の未来に向けた実質的な提言がなされることを期待しています。また、若手研究者・実践者による発信や世代間の対話も重視し、多様な立場・経験を持つ方々の参加が、有機的な知の創出につながることを願っています。

酷暑が予想される時期の開催ではありますが、対面ならではの熱量ある交流の機会として、参加者の皆様にとって充実した時間となるよう、実行委員一同、準備を進めております。本年会が、教育の現在を捉え直し、次代への展望を拓く契機となりますことを願ってやみません。

最後になりましたが、年会の運営にあたり、引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第 41 回年会実行委員長 若杉 祥太（大阪教育大学）

## 第 41 回年会開催要項

- ・開催日：2025 年 8 月 30 日（土）・31 日（日）
- ・会場：大阪教育大学（柏原キャンパス）  
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4 丁目 698-1
- ・事務局：日本教育情報学会第 41 回年会実行委員会  
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4 丁目 698-1  
大阪教育大学 理数情報教育系 次世代教育部門 若杉研究室
- ・主催：日本教育情報学会
- ・共催：大阪教育大学
- ・後援：大阪府教育委員会，大阪市教育委員会
- ・年会ウェブページ：<https://www.jsei-nenkai.jp/>  
※本要項からの変更・更新については，上記ページ（および学会ウェブサイトなど）にて随時，案内します。適宜，ご確認をお願いします。
- ・スケジュール

1 日目：2025 年 8 月 30 日（土）	
10:00～12:00	課題研究発表 教育資料研究会（1） A 会場（A216 教室） 特別支援教育 AT 研究会（1） B 会場（A215 教室） IR 研究会（1） C 会場（A212 教室） ICT 活用研究会（1） D 会場（A211 教室） グローバル教育研究会（1） E 会場（A210 教室） 教育技術研究会 F 会場（A209 教室） 「AI と教育」研究会 G 会場（A201 教室） プログラミング教育研究会 H 会場（A202 教室）
12:00～13:00	昼食・休憩 理事会・評議員会 A203 教室
13:15～13:45	総会・学会賞表彰式 A314 教室
13:45～14:15	研究会活動報告 A314 教室
14:30～15:30	基調講演 A314 教室
15:45～17:45	シンポジウム A314 教室
18:00～	懇親会 DiningTERRA（1 階食堂ホール）

2日目：2024年8月31日（日）	
9:30～12:00	課題研究発表 教育資料研究会（2） A会場（A216教室） 特別支援教育AT研究会（2） B会場（A215教室） IR研究会（2） C会場（A212教室） ICT活用研究会（2） D会場（A211教室） グローバル教育研究会（2） E会場（A210教室）
12:00～13:00	昼食・休憩
13:00～16:00	一般研究発表 教育方法 A会場（A216教室） 教材開発 B会場（A215教室） 学習評価・教科教育 C会場（A212教室） 教育実践① D会場（A211教室） 教育実践② E会場（A210教室） 情報教育① F会場（A209教室） 情報教育② G会場（A201教室） オンライン オンライン

・ 協賛企業の展示も同フロアのA213にて行います。

## 基調講演（8月30日（土）14:30～15:30）

### Next GIGA時代の教育デザイン

#### ～次世代のICT活用教育へ向けた大阪教育大学の取り組み～

講演：鈴木 剛（大阪教育大学 理事・副学長）

司会：若杉 祥太（大阪教育大学）

大阪教育大学は令和4年に教員養成フラッグシップ大学に認定され、「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくけん引役としての役割を果たすべく、さまざまな取り組みを行なっています。

その背景として、昨今はGIGAスクール構想とともにICTを活用した教育が学校現場で必須になってきており、生成AIをはじめとした新しいテクノロジーが教育に取り入れられ、産業界との連携も活発になっています。

本講演では、本学がフラッグシップ大学として取り組んでいるイノベーティブな産官学連携事例を紹介しながら、次世代のICT活用教育がどうあるべきかを模索します。

## シンポジウム（8月30日（土）15:45～17:45）

### Next GIGA と教育現場の変革

パネリスト：相澤 崇（都留文科大学 准教授）  
島橋 尚吾（大阪教育大学附属天王寺中学校 教諭）  
中野 淳（大阪教育大学 特任教授・元日経パソコン編集長）  
阪東 哲也（鳴門教育大学 准教授）  
古川 健（大阪府教育庁 首席指導主事）

コーディネーター：若杉 祥太（大阪教育大学 准教授）

GIGA スクール構想により、1人1台端末と高速ネットワークが全国の学校に整備され、学校教育はこれまでにない規模で情報化が進展しました。かつて「ICTの導入」が課題であった時代から、「どのようにICTを活用するか」が問われるフェーズへと移行しつつあります。いま私たちは、GIGA スクールの「次」の段階、すなわち「Next GIGA」の実現に向けて、実践と理論の双方から教育のあり方を再構築していく局面に立っています。

本シンポジウムは、第41回年会のテーマ「Next GIGA と教育現場の変革」に基づき、GIGA スクール構想の進展を踏まえた上で、今後の教育実践・教育研究の方向性について考察することを目的としています。

これまでの端末活用やICT整備といった物理的基盤の議論から一歩進み、生成AIの教育応用、教育データの利活用、遠隔・ハイブリッド学習の可能性、個別最適な学びと協働的な学びの共存、情報モラル・セキュリティの課題、さらには教員研修や学校組織の変革まで、教育現場を取り巻く課題は複層的・多面的です。

本シンポジウムでは、こうした論点に対して、実践現場・研究機関・教育政策・情報技術開発など、異なる立場・領域で活動する登壇者をお迎えし、それぞれの視点から具体的な事例や考察を共有していただきます。

議論のゴールは、単に技術の導入や制度の改善を語ることはありません。私たちがいかにして「教育の本質」に立脚しつつ、情報技術の進展と共に学びを豊かにできるか。教育情報学の知見を基盤としながら、「Next GIGA」を現実の教育の中でどのように設計・展開していくか。その構想と実装を見通すための出発点としたいと考えています。

当日は、会場との対話も重視し、参加者の皆さまとともに、多様な問いを共有し、未来に向けた議論を深める場としたいと考えております。

## 課題研究発表 1 日目

教育資料研究会 (1) 8月30日 (土) 10:00~12:00

A 会場

テーマ: NextGIGA に対応した実践的な教育資料の開発と活用

コーディネーター: 高村真希 (金沢学院短期大学), 又吉斎 (沖縄女子短期大学)

- 1AA1 電気と通信の仕組みのメタバースの制作と教材化  
—企業との連携による社会貢献活動—  
青木稀愛 (岐阜女子大学), 左高結衣 (岐阜女子大学),  
佐藤来海 (岐阜女子大学), 齋藤陽子 (岐阜女子大学),  
竹中昭武 (株式会社電算システム), 横山隆光 (岐阜女子大学)
- 1AA2 独立系書店の実態と取り組み—現場から見る課題と展望—  
田島萌乃 (十文字学園女子大学)
- 1AA3 保育者の遊戯室に関するイメージと現状を探る  
高村真希 (金沢学院短期大学), 浅香総彦 (大徳学園)
- 1AA4 教育DX時代における教育リソース並びにe-Learningの構成 (3)  
—教育DX時代のe-Learningカリキュラム開発の在り方—  
久世均 (岐阜女子大学), 齋藤陽子 (岐阜女子大学)
- 1AA5 メタバースを活用した国際観光教育の一試行  
—アサンブション大学と連携した下呂市観光交流センターの構築—  
森未萌 (岐阜女子大学), 上原ともみ (アサンブション大学),  
又吉斎 (沖縄女子短期大学), 加治工尚子 (岐阜女子大学),  
瀬戸敦子 (岐阜女子大学)
- 1AA6 小学校外国語教育における学習テクノロジーの基礎研究  
—NextGIGA時代における学習プロセスの記録、評価及びフィードバックの自動化  
に向けた検討—  
又吉斎 (沖縄女子短期大学)

特別支援教育AT研究会 (1) 8月30日 (土) 10:00~12:00

B 会場

テーマ: NextGIGA における特別支援教育の在り方

コーディネーター: 小川修史 (兵庫教育大学), 新谷洋介 (金沢星稷大学)

- 1AB1 知的障害児の認知特性に配慮した就労に向けた自己内対話システムの検討  
木村健大 (兵庫教育大学大学院), 小川修史 (兵庫教育大学)
- 1AB2 多義的な概念「困り」の峻別を目的とした学習支援システムの開発  
辻村実央 (兵庫教育大学大学院), 小川修史 (兵庫教育大学)
- 1AB3 特別支援学校高等部卒業生の自立を支える言語化・情報リテラシー教育の実践  
—自立した公的支援へリーチするために必要なこととは?—  
圓井健史 (兵庫県立播磨特別支援学校)
- 1AB4 特別支援学校におけるGIGA端末等の入出力支援機器についての調査  
大井雅博 (帝京大学), 金森克浩 (帝京大学), 新谷洋介 (金沢星稷大学)
- 1AB5 特別支援学校 (肢体不自由) のGIGAスクール構想により整備された機器の活用  
に関する介入型調査  
新谷洋介 (金沢星稷大学), 織田晃嘉 (国立特別支援教育総合研究所),  
金森克浩 (帝京大学), 大井雅博 (帝京大学)
- 1AB6 肢体不自由者のスポーツ参加を支援するデバイスの開発 (1)  
—カローリングストライクに焦点をあてて—  
大杉成喜 (皇學館大学), 伊藤海都 (兵庫教育大学大学院),  
庄司衣吹 (皇學館大学)

**IR活用研究会（1）8月30日（土）10:00～12:00**

C 会場

テーマ：IRによる教育情報活用

コーディネーター：白鳥成彦（東京都市大学），今井匠太郎（東京科学大学）

- 1AC1 日本版IR人材養成プログラムのモデルカリキュラムの設計と開発  
—Webアンケート及びワークショップの結果をもとに—  
大石哲也（九州工業大学），井芹俊太郎（神田外語大学），  
近藤伸彦（東京都立大学），松本清（東京科学大学），  
高松邦彦（東京科学大学）
- 1AC2 文章生成AIを用いた制度文書からの圏論的データベースの構築  
—Construction of Categorical Databases from Institutional Documents Using  
Text Generation AI—  
稲倉恒法（東京科学大学），今井匠太郎（東京科学大学），  
高松邦彦（東京科学大学），松本清（東京科学大学），  
森雅生（東京科学大学）
- 1AC3 大学の内部質保証の取組における課題と長所  
—3巡目の機関別認証評価における指摘事項を中心に—  
高田英一（神戸大学），森雅生（東京科学大学），関隆宏（新潟大学），  
大石哲也（九州工業大学），小柏香穂理（電気通信大学），  
高松邦彦（東京科学大学）
- 1AC4 学生調査アンケート再設計の実践  
—可視化による課題共有と協働的な改善の推進—  
松本清（東京科学大学），高松邦彦（東京科学大学），  
今井匠太郎（東京科学大学），稲倉恒法（東京科学大学），  
森雅生（東京科学大学）

**ICT活用研究会（1）8月30日（土）10:00～12:00**

D 会場

テーマ：NEXT GIGA における ICT 活用の課題と取り組み

コーディネーター：河野敏行（岡山理科大学），鍋谷正尉（渋谷区立千駄ヶ谷小学校）

- 1AD1 教師の学習ソフト自作を支援するWebアプリ（仮称HCAI）の開発  
—授業実践と学習記録からの検討—  
荒義明（CBI研究会），木下昭一（東京学芸大学）
- 1AD2 白板ソフトを使った教材開発  
—ブラウザで動く教材とその開発方法—  
坂本勝（株式会社マイクロブレイン）
- 1AD3 Pythonによる地震波の可視化  
—実際の観測データを可視化して現象理解を深める—  
室谷心（松本大学）
- 1AD4 数学とプログラミングサポートページ  
河野敏行（岡山理科大学）
- 1AD5 言語習得のための新たな学習方法の模索  
—デバイスやアプリ・AIを活用して—  
坂井岳志（世田谷区立八幡小学校），片柳木の実（調布市立若葉小学校）
- 1AD6 プレイフル・ラーニング・プログラミングのすすめ  
渡邊景子（東京女子体育大学），角田博保（電気通信大学），  
久野靖（電気通信大学），中山泰一（電気通信大学）

**グローバル教育研究会（1）8月30日（土）10:00～12:00**

E 会場

テーマ：NEXT GIGA における教育・研究のグローバル化の新たな可能性  
—近未来社会を見据えたグローバル人材育成と生成 AI の活用の可能性—  
コーディネーター：清水義彦（富山県立大学），陳那森（関西国際大学）

- 1AE1 DeepSeekを活用した日本語勉強の実態調査  
—河北工業大学の日本語学科を例に—  
前川友太（河北工業大学），劉彩霞（河北工業大学），  
鄭文瑩（河北工業大学）
- 1AE2 日本語教育実習におけるAIツールの応用経験  
韓培華（中国曲阜師範大学），韓慧（中国曲阜師範大学），  
袁広偉（中国曲阜師範大学）
- 1AE3 中日翻訳におけるDeepseekの効果分析  
毛凌笙（曲阜師範大学），袁広偉（曲阜師範大学），韓慧（曲阜師範大学）
- 1AE4 日中翻訳における翻訳ツールの効果比較  
宋美蓮（曲阜師範大学），袁広偉（曲阜師範大学），韓慧（曲阜師範大学）
- 1AE5 高校日本語教育におけるAIツールの実践的応用  
張欣婕（曲阜師範大学）

**教育技術研究会 8月30日（土）10:00～12:00**

F 会場

テーマ：Next GIGA における教育技術の活用  
コーディネーター：佐藤典子（甲子園大学），治京玉記（大阪人間科学大学）

- 2AF1 AI技術が切り拓く国際交流の新たなアプローチ  
治京玉記（大阪人間科学大学）
- 2AF2 数学を活用すれば日常生活が豊かになる  
—普段の生活には数学が溢れている—  
鬼木一直（東京富士大学）
- 2AF3 水俣病に関する中学校社会科（地理的分野）の授業プランの考察  
—水俣病に関する諸資料の有効活用を通して—  
奥村信夫（滋賀大学教育学部附属中学校）
- 2AF4 大学生と高齢者の異世代交流を促進するAI活用カルタプロジェクト  
三田薫（実践女子大学），及川麻衣子（山野美容芸術短期大学）
- 2AF5 教職課程における「闇バイト」防止に関する授業実践  
—効果的な教材及び授業方法の開発について—  
泉廣治（甲子園大学），藤本光司（芦屋大学），林泰子（芦屋大学）
- 2AF6 日泰国際交流会2025の開催報告  
佐藤典子（甲子園大学）

<b>「AIと教育」研究会 8月30日（土）10:00～12:00</b>	G 会場
テーマ：NextGIGA と AI の普及によって教育はどう変わるのか	
コーディネーター：加納寛子（山形大学），福田 美誉（関西国際大学）	

- 1AG1 21世紀型スキルとマルチモーダルリテラシーを育成する生成AI活用授業の開発  
福田美誉（関西国際大学）
- 1AG2 AIの活用による学習者に最適化した文献探索システムの評価と改善  
野末俊比古（青山学院大学）
- 1AG3 生成AIによる“心の伴走者”  
—AIカウンセラーの使用感と教育現場における課題—  
加納寛子（山形大学）
- 1AG4 生成AIを活用したゲームによる「質問力」測定の試み  
若山昇（実践女子大学），加茂文吉（玉川大学），草山太一（帝京大学），  
竹内俊彦（駿河台大学），立野貴之（玉川大学）

<b>プログラミング教育研究会 8月30日（土）10:00～12:00</b>	H 会場
テーマ：NextGIGA におけるプログラミング教育の在り方	
コーディネーター：小熊良一（群馬大学），山本 利一（埼玉大学）	

- 1AH1 小学校知的特別支援学級におけるプログラミング教育の実践  
—学びのユニバーサルデザインの視点を取り入れて—  
小熊良一（群馬大学）
- 1AH2 プログラミング教材の開発課題と講座プログラムの検討について  
新垣さき（沖縄女子短期大学），比嘉勇太（沖縄女子短期大学）
- 1AH3 高等学校でのプログラミング教育におけるトレース能力向上を重視した授業の構築  
大井良知（大阪府立千里高等学校）
- 1AH4 プログラミング学習の認知活動と脳血流量変化の検討  
本郷健（大妻女子大学）
- 1AH5 生徒の振り返りシートを基にした生成AIによる形成評価  
—中学校技術・家庭科（技術分野）のプログラミング学習に焦点を当てて—  
池田周登（埼玉大学大学院），山本利一（埼玉大学）
- 1AH6 デバッグ手法を活かした教職課程向けのプログラミング教材開発  
岩城賢一（芦屋大学），藤本光司（芦屋大学），盛谷亨（芦屋大学），  
野口聡（新見公立大学）

## 課題研究発 2 日目

**教育資料研究会（2）8月31日（日）9:30～12:00**

A 会場

テーマ：NextGIGA に対応した実践的な教育資料の開発と活用

コーディネーター：長谷川春生（富山大学大学院），眞喜志悦子（岐阜女子大学）

- 2AA1 AIを活用した観光情報提供システムの構築  
— 下呂温泉での観光資源収集とモデル学習—  
左高結衣（岐阜女子大学），青木稀愛（岐阜女子大学），  
林知代（岐阜女子大学），櫛彩見（岐阜女子大学），  
村瀬康一郎（岐阜女子大学），横山隆光（岐阜女子大学）
- 2AA2 教育学部生・教職大学院生を対象とした生成AIに関する授業  
長谷川春生（富山大学大学院）
- 2AA3 GISデータを活用したメタバースの離島体験学習用教材の開発  
横山隆光（岐阜女子大学），田場大翔（岐阜女子大学），  
眞喜志悦子（岐阜女子大学），谷里佐（岐阜女子大学），  
中島彩音（岐阜女子大学），竹市朱里（岐阜女子大学）
- 2AA4 メタバースに設置した幼児向けの昆虫の学習の一試行  
— 視覚・音声を活用したバーチャル体験と学習効果の検証—  
宮城卓司（うるま市立伊波小学校），仲宗根萌歩（岐阜女子大学），  
又吉輝（岐阜女子大学），高橋咲衣（岐阜女子大学），  
高島実乃里（岐阜女子大学），横山隆光（岐阜女子大学）
- 2AA5 「舞台作品データベース」における専門教育と生涯学習利活用について  
最上雅子（岐阜女子大学大学院）
- 2AA6 授業分析のための計測用学習フローチャートと行動カテゴリーの開発（第2報）  
— AIを活用した小学校の話し合い活動の分析—  
眞喜志悦子（岐阜女子大学），横山隆光（岐阜女子大学）
- 2AA7 学生の教科指導力育成を目的とした実践と考察  
成瀬喜則（富山大学）
- 2AA8 キャリアステージに対応した教員に求められる資質能力の構造化の評価・改善  
— 小中連携教育コーディネータ養成カリキュラムの開発・評価—  
齋藤陽子（岐阜女子大学），久世均（岐阜女子大学），  
眞喜志悦子（岐阜女子大学）

**特別支援教育AT研究会（2）8月31日（日）9:30～12:00**

B 会場

テーマ：NextGIGA における特別支援教育の在り方

コーディネーター：小川修史（兵庫教育大学），新谷洋介（金沢星稷大学）

- 2AB1 障害者支援におけるアンコンシャス・バイアスの自認を支援するツールの設計に  
向けた検討  
— 内省と認知の再構築を促す理論的枠組みを基盤として—  
伊藤海都（兵庫教育大学大学院），小川修史（兵庫教育大学）
- 2AB2 JSL児童に対する認知的葛藤を産出する教師向け自己内対話支援システムの検討土  
井健司（兵庫教育大学），小川修史（兵庫教育大学）
- 2AB3 特別な配慮を必要とする児童・生徒への指導・支援のための教育情報に関する研  
究4  
太田容次（京都ノートルダム女子大学），金森克浩（帝京大学）
- 2AB4 特別支援学校（肢体不自由）における支援機器活用推進のための方策について  
— 特に肢体不自由教育の経験が浅い教員層への普及について—  
織田晃嘉（国立特別支援教育総合研究所）
- 2AB5 肢体不自由児の発達過程におけるICT活用に関する調査  
金森克浩（帝京大学），伊藤史人（岩手県立大学），  
福島勇（熊本高等専門学校）

**IR活用研究会（2）8月31日（日）9:30～12:00**

C 会場

テーマ：IRによる教育情報活用

コーディネーター：白鳥成彦（東京都市大学），今井匠太郎（東京科学大学）

- 2AC1 大学の上級管理職はIRをどのように捉えているのか  
—インタビュー調査を基にした質的データの分析から—  
井芹俊太郎（神田外語大学）
- 2AC2 中退予測と学生支援をつなぐデータ基盤と教学施策の実践モデル  
白鳥成彦（東京都市大学）
- 2AC3 LLMを応用したテキストデータの定量化・構造化による分析および可視化の可能性  
西出崇（小樽商科大学），椿本弥生（東京都立大学）
- 2AC4 2種（教養・SPI）のe-learningssystemを軸としたIR分析  
—大学全過程の最適化を目指したIRデータ活用—  
矢崎久（松本大学），室谷心（松本大学大学院），滝澤毅（教務課／IR担当）

**ICT活用研究会（2）8月31日（日）9:30～12:00**

D 会場

テーマ：NEXT GIGA における ICT 活用の課題と取り組み

コーディネーター：河野敏行（岡山理科大学），鍋谷正尉（渋谷区立千駄ヶ谷小学校）

- 2AD1 協働的に学びを深めるための教材開発と授業改善  
—GIGA端末とAkadakoや生成AI等を活用して—  
片柳木ノ実（調布市立若葉小学校），坂井岳志（世田谷区立八幡小学校）
- 2AD2 1人1台端末とAIの統合による小学校国語・論説文学習の展開  
—主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業デザインと学習環境の構築—  
川合智宏（国分寺市立第十小学校），石出勉（東京女子体育大学）
- 2AD3 タブレット端末を通して、互いの学びを共有し深め合う活動  
—身近な物を使ったロケット作りを通して—  
公文美貴（愛知県常滑市立大野小学校），山本俊介（常滑市立大野小学校），  
石橋かおり（常滑市立大野小学校），石原昌明（常滑市立大野小学校），  
戸高常明（常滑市立大野小学校）
- 2AD4 GIGAスクールを経験した学生のICT観の変容  
—教職課程授業におけるリフレクションの比較分析—  
両川晃子（山梨学院大学）
- 2AD5 デジタル・シティズンシップ尺度の検討  
豊福晋平（国際大学GLOCOM）

グローバル教育研究会（2）8月31日（日）9:30～12:00

E 会場

テーマ：NEXT GIGA における教育・研究のグローバル化の新たな可能性  
—近未来社会を見据えたグローバル人材育成と生成 AI の活用の可能性—  
コーディネーター：清水義彦（富山県立大学），陳那森（関西国際大学）

- 2AE1 日本の若者の国際競争力を涵養する学習モデルVer. 4  
—日本と海外の高校生のペア探究活動4年目—  
清水義彦（富山県立大学）
- 2AE2 外国人技能実習生における入国語講習の役割と課題に関する一考察  
藤本光司（芦屋大学），本田航平（株式会社SocialArk）
- 2AE3 A Practical Comparative Study on the Educational Application Performance of Generative AI: ChatGPT vs. Deepseek  
包胡日查（中国揚州大学），包胡日查（中国揚州大学）
- 2AE4 多様化する留学生のためのスマートデバイスを活用した学習支援の最適化モデルの構築  
陳那森（関西国際大学），山下泰生（関西国際大学）

## 一般研究発表

教育方法 8月31日(日) 13:00~16:00

A 会場

座長：高橋純（東京学芸大学），吉井直子（奈良女子大学）

- 2PA1 子供一人一人の学習状況を把握するためのシステムの開発  
高橋純（東京学芸大学），笠原秀浩（杉並区立松ノ木小学校），  
迫芳和（NECパーソナルコンピュータ株式会社），  
萩原雅人（株式会社電算システム），吉岡淳也（株式会社電算システム）
- 2PA2 ルーブリックを活用した小学理科の仮説検証授業の評価  
及川浩和（岐阜協立大学），埴岡靖司（岐阜県山県市梅原小学校），  
山崎宣次（神戸女子大学）
- 2PA3 教員研修におけるオンラインツール・AIツール活用  
ーオンライン・対面での活用についてー  
織田晃嘉（国立特別支援教育総合研究所）
- 2PA4 ポピュラー音楽のピアノ初見演奏における視線行動の分析  
加茂文吉（玉川大学），立野貴之（玉川大学）
- 2PA5 中学校技術家庭科におけるモニタリング能力と学習意欲の関連に関する研究  
ーセルフモニタリングの視点からの分析ー  
中嶋秀（芦屋大学大学院）
- 2PA6 デジタル環境における読書概念の再構築に向けた予備的考察  
ー情報リテラシーとしての読書能力とその育成を視野にー  
野末俊比古（青山学院大学）
- 2PA7 タイピング力習得を兼ねたPython教材の研究  
ー作成した教材に対する生徒の反応と授業評価ー  
福島俊亮（埼玉県立松山高等学校），岡部建次（次世代研），  
杉本範雄（埼玉県立上尾高等学校）
- 2PA8 大学生を対象とした自主性尺度の汎用化  
藤本光司（芦屋大学）
- 2PA9 大学における指導補助者の能力開発に関する考察  
ー令和4年大学設置基準改正後の多様化する指導補助者に着目してー  
宮浦崇（九州工業大学）
- 2PA10 「情報倫理」の現状と課題  
吉井直子（奈良女子大学），千代延未帆（滋賀大学），  
高田雅美（奈良女子大学），城和貴（奈良女子大学）

- 2PB1 保育現場の滑り台事故を再現した3D教材の開発  
大沢裕(松蔭大学), 立野貴之(玉川大学), 野末晃秀(松蔭大学)
- 2PB2 中教研機関誌「数学教育」のデジタル化  
安藤忠展(岐阜県関市立津保川中学校)
- 2PB3 看護学生を対象としたギャンブル依存症の認知度普及を目指したVR教材の課題  
川下貴士(松蔭大学), 小野坂益成(松蔭大学),  
中澤沙織(昭和医科大学), 丸山昭子(松蔭大学),  
立野貴之(玉川大学), 福井英理子(東邦大学)
- 2PB4 雑誌的デザインを施した教科書は学習効果を高めるか?  
竹内俊彦俊彦(駿河台大学)
- 2PB5 デジタル・シティズンシップに基づくGIGAびらきカリキュラムの検討  
豊福晋平(国際大学GLOCOM)
- 2PB6 リハビリテーション看護領域の安全教育システムの開発—教師データの作成—  
長嶋祐子(駒沢女子大学), 立野貴之(玉川大学), 金宰郁(松蔭大学),  
小野坂益成(松蔭大学)
- 2PB7 AIと宇宙入門の教材開発  
—小学生向け、白板ソフトでつくるAI入門と宇宙入門の教材開発—  
坂本保代(株式会社マイクロブレイン)
- 2PB8 教員の授業づくりにおける資料活用と支援ニーズ  
—図書館サービスの可能性に関する予備的調査—  
庭井史絵(青山学院大学)
- 2PB9 LLMを用いた解答パターン分析による学習者の理解不足知識の自動特定モデル  
岸康人(高知学園短期大学), 來栖正博(高知学園短期大学)
- 2PB10 保育現場における危機察知能力の育成を目的としたVRプラットフォームの開発  
立野貴之(玉川大学), 大沢裕(松蔭大学), 野末晃秀(松蔭大学)

**学習評価・教科教育 8月31日(日) 13:00~16:00**

C 会場

座長：鈴木秀顕（松蔭大学），阪東哲也（鳴門教育大学）

- 2PC1 学びの接続を支える評価と関係性に関する一考察  
一高等教育・生涯学習・地域ケアを統合する学習デザインの模索一  
鈴木秀顕（松蔭大学）
- 2PC2 ハイブリッド型プログラミング環境利用時における学習者の行動特性に関する探  
索的研究  
CarlotCharline（鳴門教育大学），阪東哲也（鳴門教育大学）
- 2PC3 為政者の倫理観 一江戸時代を中心として一  
池田聡（芦屋大学）
- 2PC4 自由進度・複線型の学びを支援するクラウド連携による学習材の分析  
山本朋弘（中村学園大学）
- 2PC5 Computational Thinkingが社会的問題解決プロセスに与える影響の検討  
宮崎幸弘（松山聖陵高等学校），長井映雄（鳴門教育大学），  
阪東哲也（鳴門教育大学）
- 2PC6 大阪府高校入試改革後の定員割れ公立校の特徴分析  
一志願倍率データをもとに一  
藪中孝太朗（大阪教育大学大学院），若杉祥太（大阪教育大学大学院）
- 2PC7 教員の指導観に基づく潜在因子と探究学習に対する意識との関連性  
佐野雄大（徳島大学大学院），福井昌則（岩手県立大学）
- 2PC8 就業体験が学生生活に影響を及ぼすか否かについての考察  
一ライフキャリア教育としての就業体験の効果一  
田中聖華（横浜商科大学），榎本真俊（横浜商科大学），  
立野貴之（玉川大学），清水健太（松蔭大学）
- 2PC9 スモールステップによる音楽リテラシー向上を目指したScratch教材の設計  
福多朝子（川崎市立東小倉小学校），長井映雄（鳴門教育大学），  
阪東哲也（鳴門教育大学）
- 2PC10 映像脈波を用いた学習者の感情安定性評価と教育改善の可能性  
阪東哲也（鳴門教育大学），CarlotCharline（鳴門教育大学），  
竹内精治（Olive株式会社），曾根直人（鳴門教育大学）

**教育実践① 8月31日(日) 13:00~16:00**

D 会場

座長：石出勉（東京女子体育大学），加藤亮介（日本大学）

- 2PD1 ジグソー法を用いた高等学校保健・精神保健授業の試み  
一教材データベースを活用した授業研究を通して一  
石出勉（東京女子体育大学），高柳佐土美（東京女子体育大学），  
浅野結香（東京都立板橋有徳高等学校）
- 2PD2 芦屋大学におけるドイツ語教育実践報告  
井村薫子（芦屋大学）
- 2PD3 地域（郷土）に対する市民の歴史認識を高める取り組みの現状と課題  
一戦国武将・金森長近に焦点をあてた滋賀県守山市の事例をもとにして一  
奥村信夫（滋賀大学教育学部附属中学校）
- 2PD4 芸術大学における産学連携複合授業モデルの構築と評価  
一複合履修形態による学習効果と主体的成長の分析一  
加藤亮介（日本大学），片桐祥太（日本大学），  
沼田真明（株式会社テレビ朝日/熊本大学大学院），  
新行内康慈（十文字学園女子大学），宮武苑子（日本大学）
- 2PD5 日本語学習の支援教材に関する実践Ⅱ  
一外国にルーツをもつ児童らの学習意欲を高める一  
河野文子（筑波大学）
- 2PD6 大学の英語の授業における多読の実践一学生の読書量を増やす試み一  
呉亜矢（大阪電気通信大学）

**教育実践② 8月31日(日) 13:00~16:00**

E 会場

座長：清水健太（松蔭大学），伊達諒（高知学園短期大学）

- 2PE1 ビジネスコンテストを通じたデザイン思考の実践  
清水健太（松蔭大学）
- 2PE2 中学生の自作ドローン製作と操作の実践研究  
庄司衣吹（皇學館大学），大杉成喜（皇學館大学）
- 2PE3 小学生の学習意欲向上にむけたメタバース活用の試み  
高橋脩（大阪信愛学院小学校）
- 2PE4 保育ドキュメンテーションにおける研修方法の模索  
伊達諒（高知学園短期大学）
- 2PE5 初等教育における3Dプリンタを用いた全校STEAM教育の実践  
埴岡 靖司（岐阜県山県市立梅原小学校），臼井悠一（岐阜大学），  
及川浩和（岐阜協立大学），山崎宣次（神戸女子大学）
- 2PE6 初任教師の校内育成システム構築に校内指導教員の果たす役割  
—校内指導教員のインタビュー分析を通して—  
日比光治（兵庫教育大学大学院），益子典文（岐阜大学）
- 2PE7 教育現場での用手的止血法の有効性の検証  
—用手的腋窩止血法の提案と既存止血帯の比較—  
成瀬優享（芦屋大学），田邊吉朗（野崎徳洲会病院），  
田中公明（福知山市消防本部），原健太（舞子台病院）

**情報教育① 8月31日(日) 13:00~16:00**

F 会場

座長：藤巻貴之（目白大学），増山一光（嘉悦大学）

- 2PF1 文章生成AIの利用意志の変容  
藤巻貴之（目白大学），立野貴之（玉川大学）
- 2PF2 LINEグループで誰を待たせているとネガティブ感情が生じやすいか  
加藤尚吾（東京女子大学），加藤尚吾（東京女子大学），  
加藤由樹（相模女子大学），立野貴之（玉川大学）
- 2PF3 LINEのテキストコミュニケーションで返信を待たせる側のネガティブ感情の喚起  
加藤由樹（相模女子大学），加藤尚吾（東京女子大学），  
竹内俊彦（駿河台大学），立野貴之（玉川大学）
- 2PF4 「短期大学生の大学生活における生成AIの利用に関する調査」  
阿久津毅（昭和学院短期大学）
- 2PF5 生成AIによる自動採点プログラムの作成と精度  
石野邦仁子（淑徳大学），松山恵美子（淑徳大学）
- 2PF6 「データの活用」学習に関する生成AI活用の検討  
市川隆司（大阪信愛学院大学），松本宗久（神戸親和大学）
- 2PF7 初等中等教育におけるデータリテラシー育成  
—学習指導要領の変遷と生成AI活用の可能性—  
松本宗久（神戸親和大学），市川隆司（大阪信愛学院大学）
- 2PF8 文系大学生を対象としたAIプログラミング教育における非認知能力とプログラミングスキルとの関係  
山本美紀（松蔭大学）
- 2PF9 情報セキュリティを踏まえたAIに関する基礎教育の検討  
増山一光（嘉悦大学）

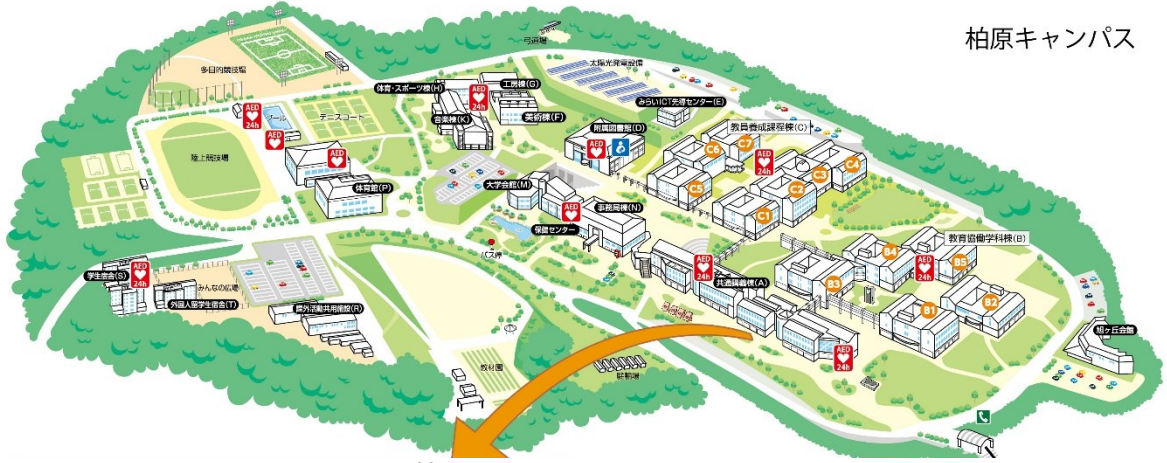
- 2PG1 中学校技術分野「D:情報の技術」における(2)ア・イの目標の明確化  
野口聡(新見公立大学), 林泰子(芦屋大学), 安東茂樹(芦屋大学),  
藤本光司(芦屋大学)
- 2PG2 中学校技術分野「D:情報の技術」における(3)ア・イの目標の明確化  
林泰子(芦屋大学), 野口聡(新見公立大学), 安東茂樹(芦屋大学),  
藤本光司(芦屋大学)
- 2PG3 大学におけるPC必携化に関する研究について  
奥田由紀恵(福山平成大学)
- 2PG4 著作権教育を推進する最新教材の動向について  
小熊良一(群馬大学)
- 2PG5 中学生・高校生の人気は、インターネットいじめ加害のリスク要因になりうるのか?  
一人気の自己知覚と加害経験およびインターネット依存傾向に注目して—  
佐々木聡(湊川短期大学), 田中雄也(寝屋川市立第七中学校),  
米田謙三(早稲田大阪高等学校), 安東茂樹(芦屋大学)
- 2PG6 大学教育DX化としての無線LAN構築とその効果について  
白川雄三(大阪学院大学), 金崎暁子(大阪学院大学),  
藤村昭文(大阪学院大学)
- 2PG7 むくもりを共有する表現 — 絵本的世界観を応用した触覚インターフェース—  
土肥由起子(宝塚市立宝塚中学校), 土肥健太郎(大阪芸術大学),  
浅海真弓(兵庫教育大学)
- 2PG8 文系大学における初年次学生の文書作成ソフトウェアに関わる知識と技能の実状  
相澤崇(都留文科大学)

- 2PH1 小学校社会科教科書に掲載されているQRコンテンツの利活用の実態  
安里基子(与那原町立与那原小学校), 八木澤史子(千葉大学),  
佐藤和紀(信州大学), 堀田龍也(東京学芸大学)
- 2PH2 学びの個別最適化をめざす自律活用型デジタルコンテンツデザイン  
—学びの基礎としてのインストラクショナルデザインを取り入れた初等科教育法  
(音楽)の構造化とカリキュラム開発—  
岩木美詠子(岐阜女子大学大学院)
- 2PH3 メタバースを活用した国際協働による観光多言語化学習の実践とその教育的効果  
—日タイ大学間連携による日本語教育への応用—  
上原もとみ(アサンプション大学),  
PreechanaritSiriwan(アサンプション大学), 横山隆光(岐阜女子大学)
- 2PH4 外国人材育成における現場の課題  
—人事担当者へのインタビュー調査の結果と考察—  
総田はるみ(横浜商科大学)
- 2PH5 HMACによる電子学生証の正当性検証とその応用  
金幸郁(松蔭大学)
- 2PH6 「総合的な探究(学習)の時間」に関する教師の意識の変化  
登本洋子(東京学芸大学), 溝上慎一(桐蔭横浜大学)
- 2PH7 自然言語生成を活用した問題作成自動化の試み  
矢野口聡(松本大学松商短期大学部)

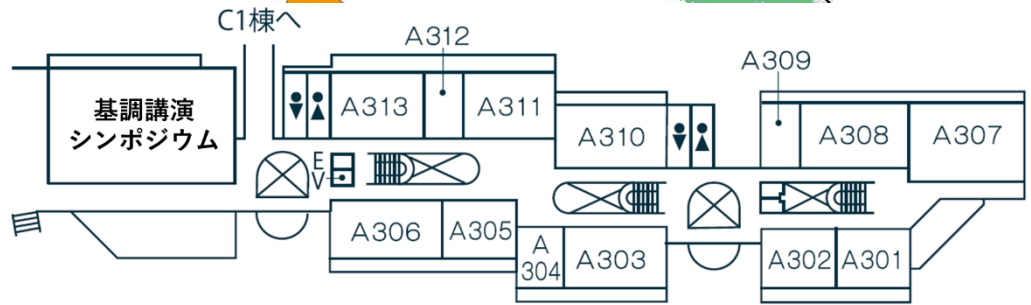
※オンライン発表のURLは参加申込者に当日までにメールと受付で配布します。

《キャンパスマップ》

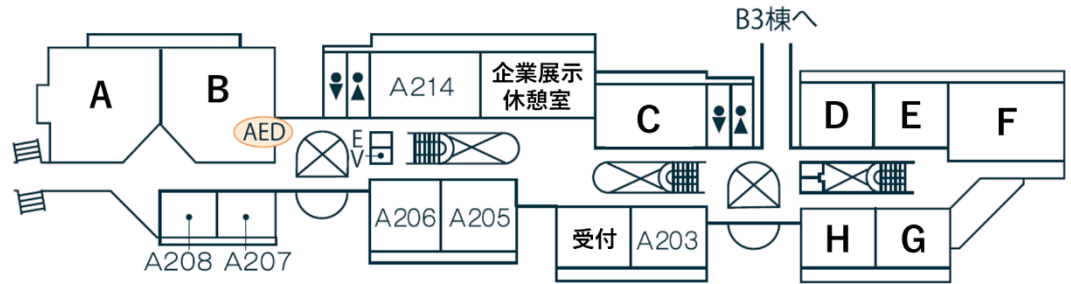
柏原キャンパス



3F



2F



C1棟へ

B3棟へ

#### ◆開催方法

- ・ 対面方式で実施します。ただし、一般研究発表の一セッションはオンライン開催です。

#### ◆開催までの主な日程

原稿提出	2025年6月1日（日）～7月4日（金）
参加申込	2025年6月1日（日）～8月2日（土）
論文集郵送申込	2025年6月1日（日）～8月2日（土）

#### ◆原稿提出方法

- ・ 原稿は、発表採択の方にお送りした要領ならびにフォーマットに従い、作成してください。年会ウェブページ内の「原稿作成方法」にも掲載されています。PDF形式に変換したのち、ウェブページの「各種申込み」の「原稿提出」フォームからご提出ください。提出期限は7月4日（金）深夜12時（厳守）です。
- ・ 提出するファイル名は発表コードとしてください。発表コードは、本ニュースレターのプログラムにおいて、発表タイトル前に記載されている半角英数字4桁です。
- ・ 発表申込み時のタイトル、発表者、所属など（本ニュースレターのプログラムに記載されているもの）から変更がある場合は備考欄に必ずその旨を記載してください。

#### ◆発表会場で使用できる機器等

- ・ 各会場（教室）ではマイクおよびプロジェクターが使用可能です。
- ・ パソコンは各自で持参してください。なお、プロジェクターとの接続はHDMIになります。MacBookなどインタフェースがUSB-Cのみの場合などには、変換ケーブルを忘れずにお持ちください。

#### ◆年会参加方法

- ・ 参加申込みは、下記まで参加費等の振込みを完了したのち、年会ウェブページ内の「各種申込み」の「参加申込」フォームを選択して参加手続きを行なってください。  
振込先 銀行名：三菱UFJ銀行  
支店名：芦屋支店（483）  
口座番号：普通 0171778  
口座名義：日本教育情報学会年会企画委員会
- ・ 振込の名義は本人（参加申込者）としてください。大学ごとの団体・組織名の振込み（代理振込み）をされないようご注意ください。
- ・ 学会本部事務局への学会年会費の振込先と年会のための参加費・論文集費等の振込先は異なりますので、お間違いのないようご注意ください。

#### ◆各種費用

- ・ 会員（事前申込み）：参加費 3,000 円 論文集費 4,000 円 懇親会費 5,000 円
- ・ 会員（当日）および非会員：参加費 4,000 円 論文集費 4,000 円
- ・ 会員（学生）および後援・共催団体・協賛企業の方々：参加費無料 論文集費 4,000 円
- ・ 課題研究と一般研究の両方で発表する場合も参加費は 3,000 円（または 4,000 円）です。
- ・ 学生（会員）、後援・共催団体の教職員や協賛企業の方々は、参加費は無料です。ただし、発表者は参加費が必要です。

#### ◆論文集の郵送申込（年会に参加されない方）

- ・ 年会に参加されない方で論文集を購入希望の場合は、上記振込先へ論文集代を振り込みのうえ、年会ウェブページ内「各種申込み」の「論文集郵送申込」フォームからお申込みください。年会終了後に論文集を送付します。
- ・ 論文集代金（郵送費等を含む）：4,500 円

#### ◆懇親会

- ・ 懇親会会場：大阪教育大学食堂 1 階
- ・ 参加ご希望の方はできるだけ事前申し込みをお願いします。
- ・ 懇親会費：5,000 円（ビュッフェスタイル、飲み放題付き）

#### ◆昼食

- ・ キャンパス内の学生食堂およびコンビニエンスストアは営業していません。
- ・ 大学近隣にはコンビニエンスストアや飲食店はありませんので、事前にご準備いただきますようお願いいたします。

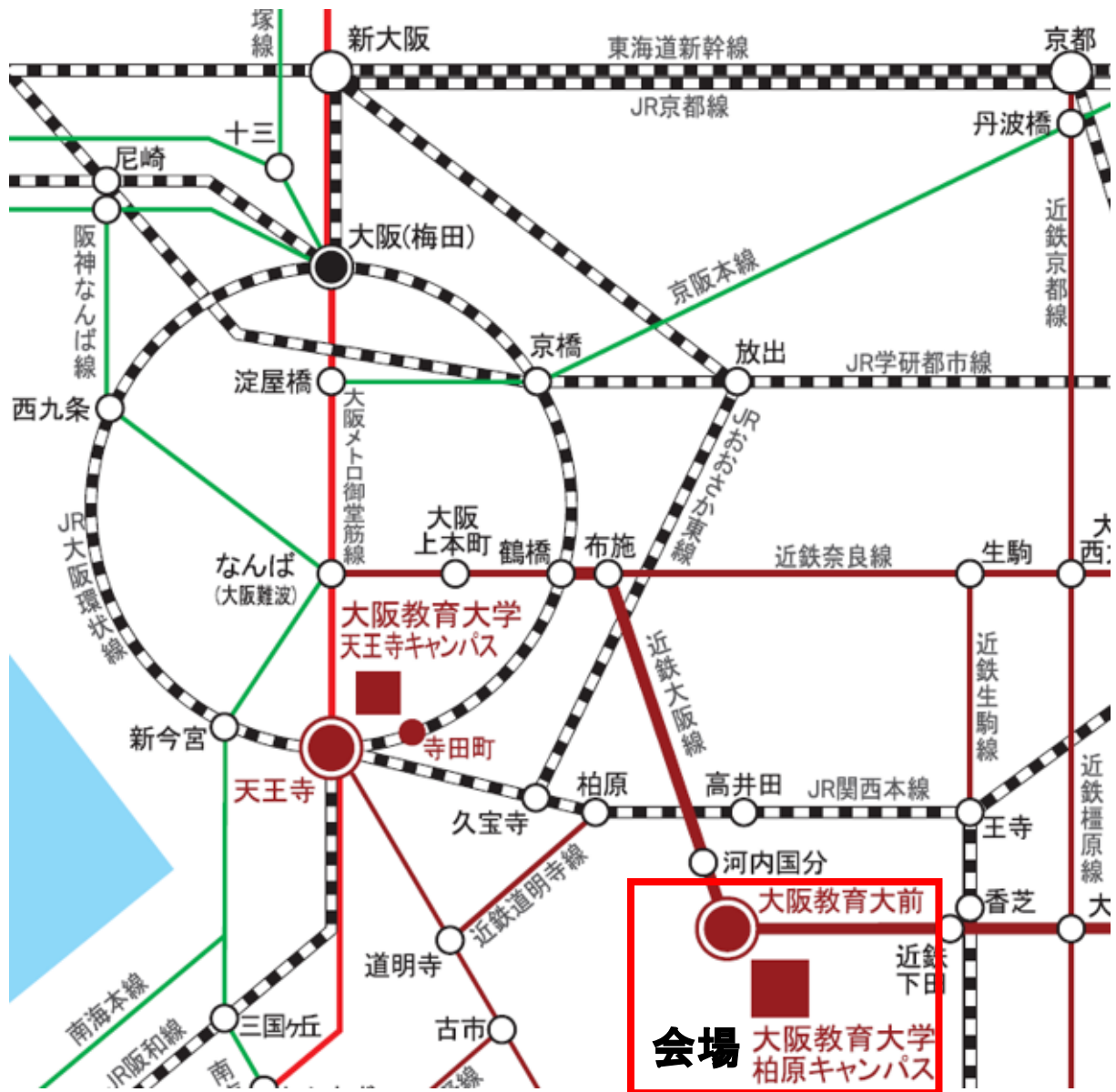
#### ◆宿泊

- ・ 会場には宿泊施設はありません。宿泊については、各自でご手配ください。
- ・ いわゆるインバウンド拡大や EXPO 2025 大阪・関西万博のため、混み合う場合があります。価格も上昇傾向にありますので、早めの手配をおすすめします。

#### ◆会場アクセス

- ・ 大阪大学柏原キャンパス：〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1  
交通アクセス：[https://osaka-kyoiku.ac.jp/access\\_map.html](https://osaka-kyoiku.ac.jp/access_map.html)

《近郊からの交通経路》



### ◆広告掲載（協賛）募集

年会論文集用の広告を募集いたします。広告掲載（協賛）をいただいた企業の方には、当日会場内ブースにて、製品紹介および展示等をしていただくことが可能です。企業のPRや情報交換の場として大いにご活用いただければ幸いです。

詳細は以下の通りとなっております。会員の皆さまにおかれましてはお知り合いの関連企業にお声掛け頂き、多くの企業の方にご参加いただけるよう、ご紹介のほどよろしくお願いたします。

広告掲載申込方法などは年会ウェブページにて告知します。その他に、ご質問がありましたら、年会ウェブページのお問い合わせからお願いします。

協賛（料金 ¥40,000）		
内容	論文集掲載広告（広告1）	
・展示（1ブース） ・広告1（論文集掲載） ・広告2（フライヤー配布）	色	1色（モノクロ）
	貢（寸法）	1/1貢（天地240mm×左右160mm）
	形式	Word, JPEG

## 日本教育情報学会 運営本部事務局

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1  
大阪教育大学 理数情報教育系 理数情報部門 若杉研究室

E-mail: [jsei@jsei.jp](mailto:jsei@jsei.jp)

HP: <https://www.jsei-nenkai.jp/>